

令和元年度第4回館林市子ども・子育て会議 会議録概要

1 日 時 令和元年12月16日(月)午後3時00分～4時30分

2 場 所 市役所5階501A会議室

3 出席者

【館林市子ども・子育て会議委員】 13名

森会長、永井副会長、津久井委員、角田委員、大野委員、大塚委員、荻野委員、原委員、鎌田委員、川島委員、向井委員、阿部委員、平林委員(以上名簿順)

【事務局】 12名

保健福祉部 : 中里部長

こども福祉課 : 木村課長、妻神子育て支援係長、萩本保育係長、恩田主任、砂賀

健康推進課 : 野澤課長、島田母子保健係長

学校教育課 : 上村課長、荒川学事係長

生涯学習課 : 山口青少年係長

教育総務課 : 折原総括係長

【委託業者】

株式会社ワイズマンコンサルティング 山口研究員

【傍聴者】 なし

4 議 事

(1)意見及び回答について

(2)第2期館林市子ども・子育て支援事業計画(案)について

5 配布資料

・会議次第

・委員名簿

・第2期館林市子ども・子育て支援事業計画案への意見に対する回答一覧

・第2期館林市子ども・子育て支援事業計画(案)

6 会議内容(概要)

(1)開 会

(2)あいさつ

中里部長

(3) 議 事

①意見及び回答について

- ・委託業者より説明

【質疑応答等】

委 員：妊婦健診の受診票について。里帰り出産も対応していただいているようで安心した。

委 員：一時預かり事業について。8時ではなく30分早く預けられると、働きたいと思っているお母さん達が助かる。

事務局：市立幼稚園については、現在午後2時から5時の間で預かり保育をしているが、朝はまだ行っていない。幼稚園教諭の人手が足りないという実情があり検討中である。

委 員：少人数であればファミリー・サポート・センターにお願いするということもできるので、そういう代替案があれば検討しやすいかと思う。

委 員：ファミリー・サポート・センターを知らなかった。

委 員：幼稚園の職員も8時には出勤しているので、緊急時の対応はしている。

事務局：産後ケア事業について。利用希望が多い状況。赤ちゃんと産婦の両方を預かるため体制ができていない医療機関が少なく、太田・足利・佐野でも対応ができていないので、現状では館林厚生病院、真中医院、鈴木助産院の3か所をお願いしている。徐々に体制は整いつつあるが、現状は2ヶ月までの赤ちゃんに対して行っている。今後、医療体制の整備が整ったら拡充できればと思う。上の子どもについては、感染症予防の観点から一緒に預かれないため、ファミリー・サポート・センターへの案内も行っている。

委 員：予防接種について。「ぼんちゃんの予防接種☆子育てナビ」への入力が大変なので簡素化するとか検討できないか。

事務局：「ぼんちゃんの予防接種☆子育てナビ」については、一旦入力すると自動的にスケジュールが出てくるようになっている。健診時のときに一緒に携帯で設定することができる。もし不明な点があれば問合せいただきたい。

委 員：外国人への対応について。外国の方が何%で、どこまで力を入れてもらえるのか質問したが、検討していただいていることがわかった。外国人や転入者へのフォローアップが必要だと思う。保育園に通っていれば、他のお母さんにつながれると思うが、通っていないと情報等も入ってこない。健診などで会話ができたり、つながったりすることができればと思う。たぬきサロン（支援センター事業）を利用できなかった人も何段階かに分けて利用できると良い。産業祭のような人がたくさん集まるイ

ベントを使って子育てに関する情報（例えばファミリー・サポート・センター等）を周知できれば良い。

事務局：産業祭は11月第3日曜日に開催している。収穫祭的な部分と商業・観光も加わり、即売会や色々なイベントをしている。2年前からつつじが岡公園芝生広場でやっている。

②第2期館林市子ども・子育て支援事業計画（案）について

・委託業者より説明

【質疑応答等】

委員：P67.P68 放課後児童クラブ、放課後子ども教室の事業について積極的に取り組む必要がある。その理由は2つある。1つは放課後児童クラブの質の向上、放課後児童クラブが始まった頃は預かれれば良いという時代だったが、現在は国の指導もあり質的な向上が求められている。実態として、「預かるのに死ななければいい」と先生が言っている放課後児童クラブがあるということ。そこは70人以上の子どもを預かっている。そんな状況なら仕方ないのかと思う。このような事態を何とか解消しなければならないが、放課後児童クラブだけでは対応できないので、放課後児童クラブと放課後子ども教室の両方で環境を整えるということ。子どもの人数は減ってきているので、施設を増やすより空き教室を利用した施策が望まれるのだが、令和6年度に1か所の増加だけでは遅すぎると思う。令和3～4年度あたりにプラス1くらいにしないとだめではないか。太田市の「太田市子どもプラッツ」の例では、21校で実施し放課後17:45まで預かる。（夏休みは午前8時から）料金は、月3,500円、夏は6,000円。空き教室で15名～40名程度、地域のボランティアで運営しているが、太田市が関わっているようで、市が申し込みを行っている。館林市では1校実施していて学童クラブに近い状態だが、委託金でやっていないので子ども教室ではないかと思う。まずは、いろいろな事例を研究して館林市に一番合うやり方を考えていくことかと思う。

委員：現在、放課後児童クラブは満杯状態で希望者も多いのが現実。場所によって4年生以上は受け付けないところもあるようで、子ども達は親がいない家に帰っている。安全に遊べる場というのも必要だが、子ども教室については、学校の空き教室に限らず、地域の公民館、区民会館を活用してはどうか。地域と共に子育てしようという考え方でいくなら、学校からそのような場所に行くのもアリかと思う。その後どのように帰宅するのかという安全面の問題も出てくるが、今後は多様な考え方をしなければならないと考えている。

委員：区民会館は子どもの利用はあまりない。武道館ではみている。育成会に入らない人が多い。夏祭りもできなくなっている。

委員：質については放課後児童クラブも保育園も場所によっては怖くて預けられない。見定める親の目が必要だが、親同士の交流も少ないので共有できない現状がある。自分の目で見定める力がなくなっている。周りの子どもや大人に寄り添いながら状況を聞いてあげて、自分は何ができるのか子どもと考えるようになりたい。

委員：民生委員は地区に入っていて区長さんと情報交換している。主任児童委員は学校からの情報がないと動けない。個人情報の関係で把握が難しいので予防ができない。

事務局：要対協に出席してもらっている。

委員：区長と民生委員は連携している。

委員：基本的に相談したり、出かけたりしてくれるお母さんは心配ないと感じる。

委員：保護者が、保育園の時間で幼稚園の教育を求めていると感じている。何年か後には、こども園化という話は出ているが、幼稚園の勤務時間では人力的に難しい。特別な支援を要する子どもが増えてきているので、先生が1人必要であっても、つけられないのが現状。体制を整えばこども園化も早いのではと思う。ただ、こども園になった時に、どのように対応していけばよいのか心配である。特別な支援を要する子どもを1つの園に集約するなどの検討も必要である。

委員：幼稚園、保育園、小学校それぞれ工夫しながらやっているのだろうが、人手が足りない。正規教員の教育や成長にも力を入れていかないといけない。

委員：来年度の入園数は減っている。7時～19時の勤務時間で、0歳児は7:00～7:30で預かるので職員は7交代でやっている。1人の子どもに対して多くの保育士が子どもの状態を共有している。また、悩みを抱えている親も多いので、親に寄り添うことも必要と感じている。保育園は上から目線ではなく親と一緒に子どもを育てていくようにしている。

委員：特別支援が必要な子どもについては、定員（1日10名）があるので、通常の保育園と幼稚園にも併用という形でお世話になっている子どももいる。発達支援の軽いグレーゾーンの子は断っている。館林市では、受け皿が少なく2か所しかない。うちのセンターは、1市5町の子どもを受け入れている。できれば受け皿を増やしていただきたい。

委員：卒園を待つ子どももいる。

委員：放課後児童クラブの関係で、少子化が進む中で施設をむやみやたらに作

るのはどうかという意見はごもっともだと思う。施設の維持をしていく舵取りは難しい。既存の考え方ではうまくいかないが、現状を維持するのか発想を変えるのか、先の見通しも含めて難しい問題と思っている。保育園でも行政指導が毎年入り、保育園としての使い方を言われる。今後、館林市の規制が緩和されて施設を色々な使い方で利用できるようなれば有難いと思う。

委員：放課後児童クラブでも障がい児の受入問題について、放課後等デイサービス施設と4回くらい検討している。個人的には軽度の子どもの受け入れをしたいと思っているが、他の放課後児童クラブの意向もあるので統一した意見ではない。放課後児童クラブ側は現在、支援員（先生）の会議しかなく、経営者としての問題が検討できない状態なので、行政と一緒に代表者会議をしようと動いている段階である。なので、障がいを持っている小学生については、少し前進する余地はある。

(4)閉 会